

2016(平成28)年9月 実施

第45回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方
健康／スポーツ／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動
「孤立ゼロプロジェクト」など／区取り組み

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 洪水対策	19
4. 区の情報発信のあり方	20
5. 健康	21
6. スポーツ	22
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動	23
8. 環境・地域活動	24
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など	25
10. 区の取り組み	26
第3章 調査結果の分析	29
1. 定住性	33
(1) 居住地域の評価	33
(2) 居住地域評価の経年比較	44
(3) 地域の暮らしやすさ	50
(4) 特に暮らしにくいと感じること	55
(5) 定住意向	59
2. 大震災などの災害への備え	69
(1) 備蓄や防災用具などの用意	69
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	73
(3) 備蓄量	77
(4) 災害発生時の水や食料の確保	82
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策	85
(6) 対策をしていない理由	88
(7) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	90
3. 洪水対策	97

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	97
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	100
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	106
4. 区の情報発信のあり方	111
(1) 区に関する情報の入手手段	111
(2) 区が発信する必要がある情報	115
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	117
(4) 区の情報得られない理由	119
(5) 区の情報得られない理由の詳細	121
(6) 「お問い合わせコールあだち」の利用状況	122
5. 健康	127
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	127
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	129
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	131
(4) 1日野菜350g以上の摂取	133
(5) 体調や習慣	135
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	141
6. スポーツ	147
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	147
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	149
(3) 障がい者スポーツへの意識・行動	151
(4) スポーツボランティア活動への意識・行動	153
(5) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区での取り組みで関心があること	155
(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	157
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動	161
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	161
(2) 治安が改善していることの認知	164
(3) 居住地域の治安状況	167
(4) 区内の治安が良いと感じる点	171
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	173
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	176
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	179
8. 環境・地域活動	187
(1) 環境のために心がけていること	187
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	189
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	195
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など	201
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	201
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	204
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	205

(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	208
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	209
(6) 協力意向がある活動内容	212
(7) 「成年後見制度」の認知状況	214
10. 区での取り組み	219
(1) 満足度と重要度	219
(2) 区政への区民意見の反映度	250
(3) 区に対する気持ち	253
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	264
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	267
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	272
第4章 使用した調査票	275

はじめに

「第45回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

世論調査を経年で追いかけることによって、区の施策の効果を測ったり、多様化する区民ニーズの把握に努めたりと、本調査は区政になくてはならない羅針盤の役割をはたしています。

去年は、水害や地震など自然災害が猛威を振るった年でもありました。その影響は調査結果に如実に表れており、「区に力を入れて欲しい施策」として、「防災対策」が1位となりました。四方を川に囲まれ、地盤も脆弱と言われる当区にとって、災害や震災に対する施策は、終わりのないものと考えています。国や都との連携も含め、一層強化充実してまいります。

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を中心に治安対策に強力に取り組んできた成果として、去年の刑法犯認知件数はピークであった平成13年と比較して、約1万件減少しました。それと連動する形で、区民の体感治安が年々向上してきていることが本調査で明らかになっています。区のイメージアップの点からも、大変重要な施策ですので、目標をより高く掲げ、力を尽くしてまいります。

人口構造の急激な変化や、公共施設の老朽化問題など、区を取り巻く課題は多数ありますが、当区に対する評価は、人口の増加、民間投資の増大などの面に着実に表れています。そして、区民の皆様とともに歩む私たちにとって、何よりうれしく心強い変化は、区に誇りを持っている20代、30代の方の割合が、この5年間で大きく増加していることです。

今後も、本調査結果を十分に活かして、更なるステップアップを目指し、着実に前進してまいります。

平成29年3月

足立区長 近藤 やよい

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では10項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成28年9月1日(木)～9月26日(月) |
| (6) 調査機関 | (株)サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図

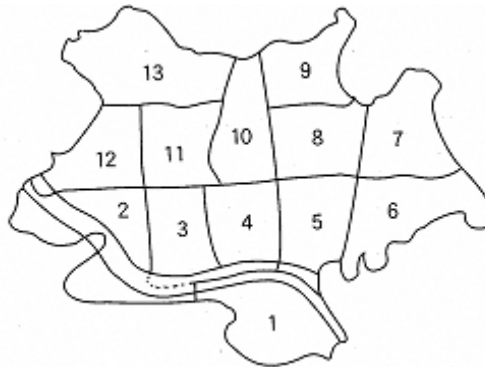


表1 調査ブロックー町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26～30、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,782票 有効回収率 59.4%
 (3) 回収不能数 1,218票 回収不能率 40.6%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	567,671	100.0%	3,000票	1,782票	59.4%
第1ブロック	65,044	11.5	343	206	60.1
第2ブロック	40,330	7.1	213	125	58.7
第3ブロック	35,608	6.3	189	117	61.9
第4ブロック	47,341	8.3	250	163	65.2
第5ブロック	51,842	9.1	274	144	52.6
第6ブロック	62,682	11.0	332	194	58.4
第7ブロック	45,469	8.0	241	142	58.9
第8ブロック	37,401	6.6	198	120	60.6
第9ブロック	27,558	4.9	145	79	54.5
第10ブロック	46,860	8.3	248	147	59.3
第11ブロック	37,045	6.5	196	113	57.7
第12ブロック	29,752	5.2	158	104	65.8
第13ブロック	40,739	7.2	213	128	60.1

(20歳以上人口は平成28年8月1日現在)

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,782票	59.4%
男性（計）	1,467	745	50.8
20 代	225	78	34.7
30 代	265	99	37.4
40 代	289	135	46.7
50 代	199	112	56.3
60 代	230	144	62.6
70歳以上	259	176	68.0
女性（計）	1,533	974	63.5
20 代	190	89	46.8
30 代	217	135	62.2
40 代	285	185	64.9
50 代	210	144	68.6
60 代	236	165	69.9
70歳以上	395	255	64.6
無 回 答		63	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」（計）の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住み続けたい」と答えた人は、1,782人のうち39.7%であった。

回答者数が1,782人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.32%であるから、「当分は住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の42.02%から37.38%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差 N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口) n = 比率算出の基数 (回答者数) P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,782	± 1.42	± 1.90	± 2.17	± 2.32	± 2.37
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,782	± 1.42	± 1.90	± 2.17	± 2.32	± 2.37
男性 (計)	745	± 2.20	± 2.93	± 3.36	± 3.59	± 3.66
20 代	78	± 6.79	± 9.06	±10.38	±11.09	±11.32
30 代	99	± 6.03	± 8.04	± 9.21	± 9.85	±10.05
40 代	135	± 5.16	± 6.89	± 7.89	± 8.43	± 8.61
50 代	112	± 5.67	± 7.56	± 8.66	± 9.26	± 9.45
60 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
70歳以上	176	± 4.52	± 6.03	± 6.91	± 7.39	± 7.54
女性 (計)	974	± 1.92	± 2.56	± 2.94	± 3.14	± 3.20
20 代	89	± 6.36	± 8.48	± 9.72	±10.39	±10.60
30 代	135	± 5.16	± 6.89	± 7.89	± 8.43	± 8.61
40 代	185	± 4.41	± 5.88	± 6.74	± 7.20	± 7.35
50 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
60 代	165	± 4.67	± 6.23	± 7.14	± 7.63	± 7.78
70歳以上	255	± 3.76	± 5.01	± 5.74	± 6.14	± 6.26

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

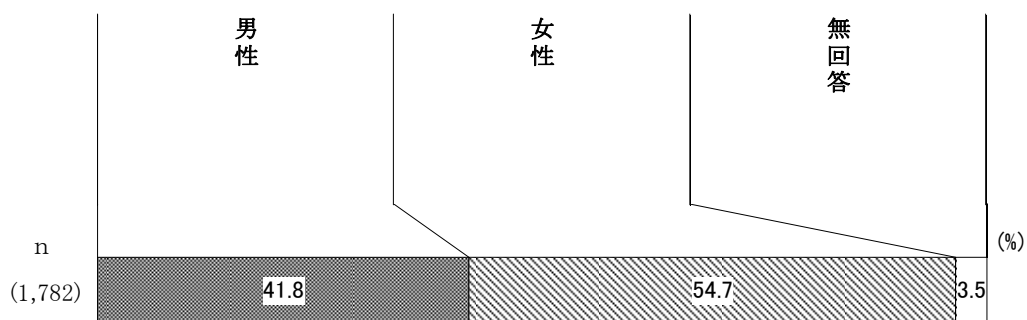
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリ）
- ② 性別……（2カテゴリ）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリ）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリ）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリ）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリ）

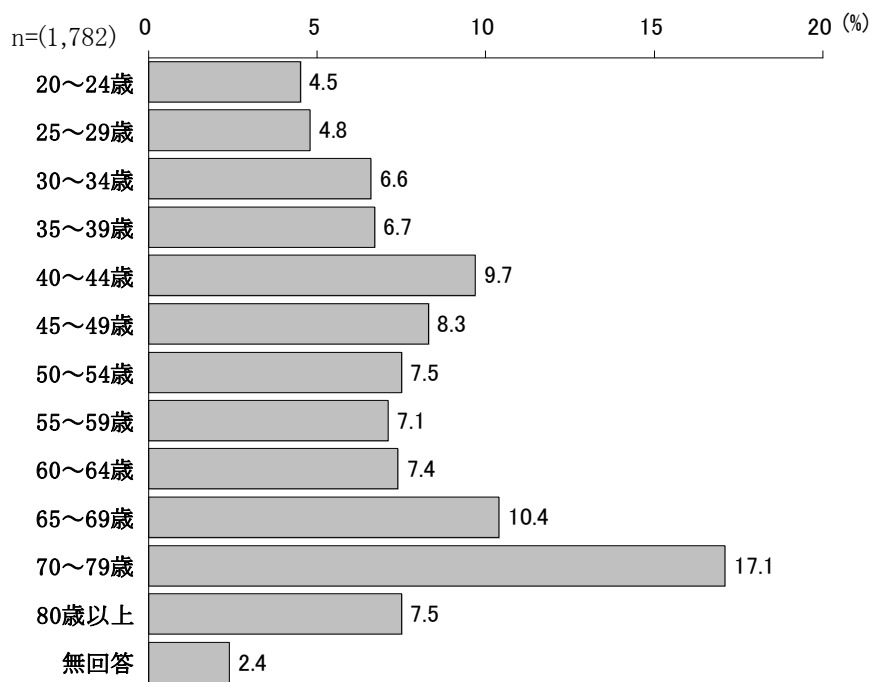
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

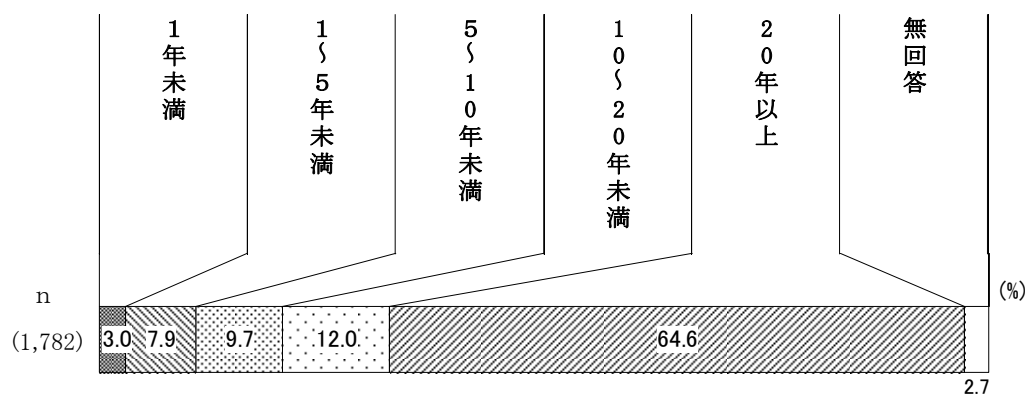
F 1 性別



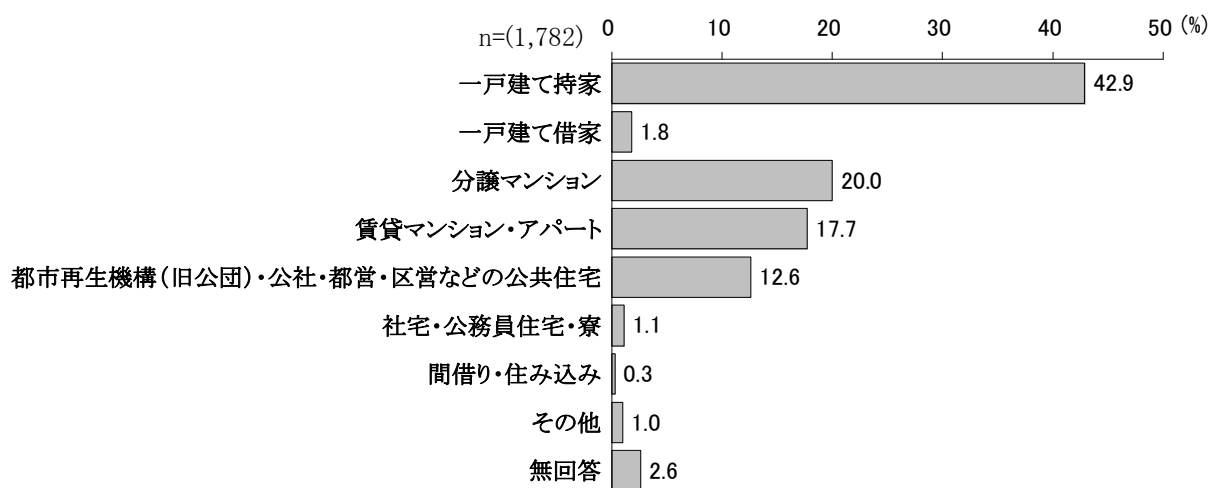
F 2 年齢



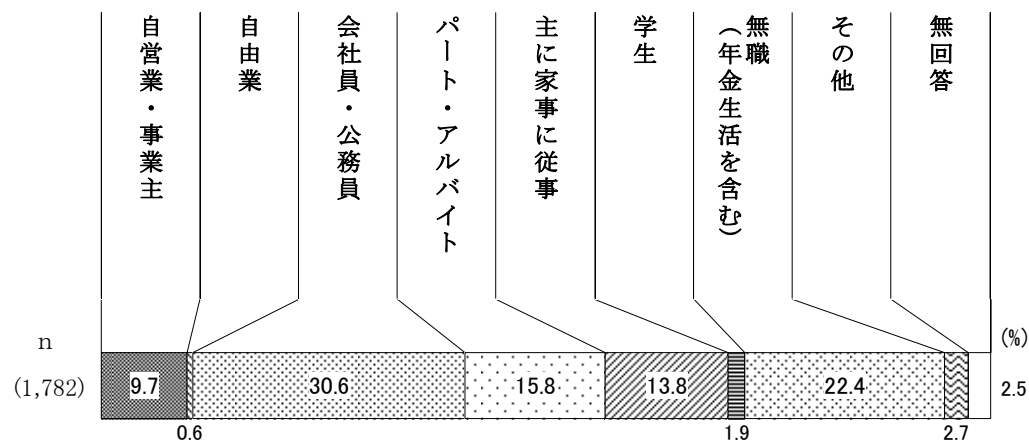
F 3 居住年数



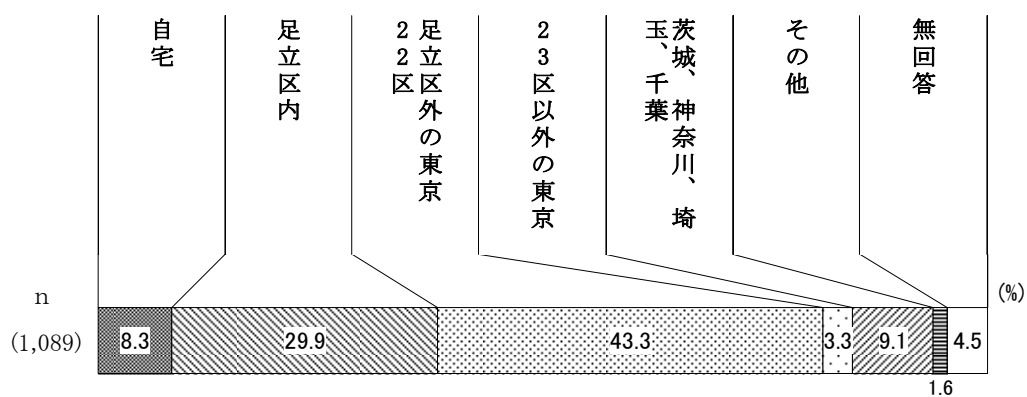
F 4 住居形態



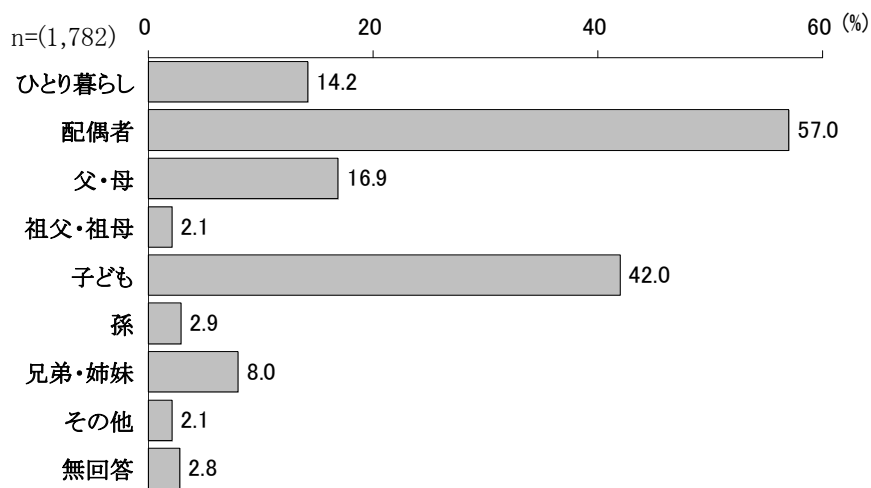
F 5 職業



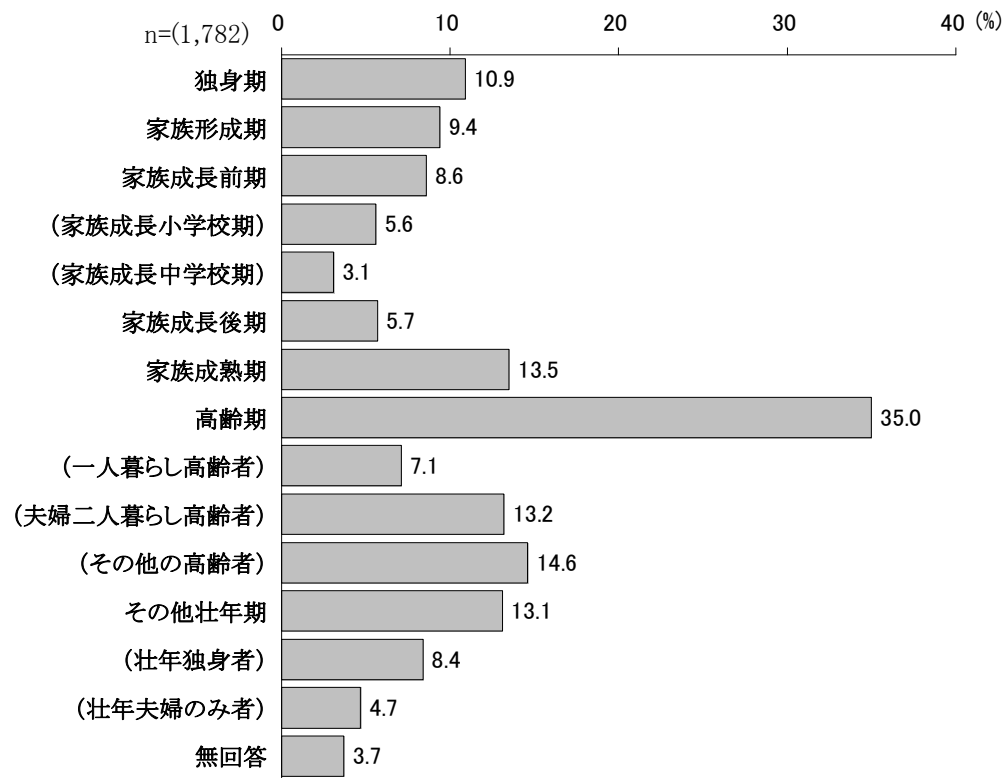
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方などにも利用しやすいよう配慮されている〉等、ほとんどの項目で横ばいという結果となっている。

しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価は横ばいであるうえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が6割を超えており、引き続き、区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面については、平成27年度調査に比べて、【増加している】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）、あるいは、【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）とも横ばいとなっている。

一方、〈ペットのふん〉については、については、【減少している】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が増加している。

このように、居住地区の利便性の良さ、環境面、防犯面への取り組みへのなどへの評価は比較的高い水準にあり、暮らしやすさへの評価をみても、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は今回79.7%と、平成27年度とほぼ同様の結果となっている。

また、地域ブロック別でみると、第2、第7、第12ブロックのように、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が2割台後半と、他のブロックより高くなっている地域もあり、依然として、暮らしやすさへの評価の地域差は解消されていない。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、今回77.4%と、ここ数年ほぼ横ばい状況にあり、暮らしやすさへの評価とほぼ対応した経年変化を示している。

全体として、区民の評価は高い水準で安定しているといえるが、今後も、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価を向上させることによって、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約5年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などの用意をしている」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲料水などの買い置きはある」）は、今回は66.6%と、平成27年度調査結果（68.0%）とほぼ同様の数値となっており、依然として、震災直後の平成24年度調査結果（73.9%）に比べて低い水準に留まっている。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への意識がやや低下している状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医療品（常備薬を含む）」は4割強、「救急セット」「簡易トイレ」は2割強に留まっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を越えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後と留まっている。

この結果は、平成27年度調査結果とほぼ同様であり、今後も、医療やトイレだけでなく、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の備蓄や防災用具などの用意を特にしていない人の内、水や食料の確保について「考えていない」という人が今回41.1%（全体の12.9%）と、平成26年度以降、横ばい状態が続いており、東日本大震災直後に比べて、区民の防災への危機意識がやや弱まっている現状が浮かび上がっている。今後も、20代、30代の男性や20代の女性をはじめとして、防災意識の希薄な層に対して、災害時の物流停止などの事態に関する情報を提供し、日頃から災害に備えるように継続的に働きかけていくことが必要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は今回27.3%と、平成27年度調査結果（27.9%）とほぼ同様の結果となっている。

また、【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」「室内に危険性のある家具類がないため不要である」「建物の壁にキズをつけたくない」等と回答する人が、いずれも2割を超えており、地震の際の家具転倒の危険性について十分に認識をしていない人は依然として多い。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の3項目が、平成27年度調査結果と同様、いずれも5割を超えて上位3位を占めるという回答傾向に変化はみられない。「ライフラインやエネルギーの確保」は、行政の当然担うべき役割であるが、「水・食料の備蓄の充実」や「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」については、行政だけではなく、区民自身の自主的な取り組みも重要であることから、行政の防災対策の一層の充実を図るとともに、区民自身の防災意識を一層高めていくことが課題である。

3. 洪水対策

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが内容までは覚えていない」）は今回59.1%と、平成27年度の調査結果（52.8%）より増加している。しかし、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度は向上しているものの、20代、30代の男性、20代の女性では「そのような地図はみたことがない」が高くなっており、今後も、このマップの存在を、性別、年代を問わず、広く区民に周知していくことが重要である。

次に、河川はん濫による浸水被害の際の対処としては、「避難する」が〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉で21.5%、〈自宅付近が浸水したとき〉で47.6%、〈近所の人が避難しているのを見たとき〉で52.4%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で28.1%と、これらのケースでは、今回、「避難する」が微増しているものの、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は79.8%で微減している。

また、荒川がはん濫した時の最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が今回27.3%と、平成27年度の調査結果（30.8%）より微減している。その一方、「自宅の高層階（3階以上）」は今回26.9%と、平成27年度の調査結果（24.6%）より微増している。

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』への認知度の向上を図るとともに、河川はん濫時に、区民が適切な対処ができるよう、幅広い支援をしていくことが必要である。

4. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が72.3%と、平成27年度の調査結果(71.7%)から微増となっており、依然として高い水準を維持している。

その一方、30代、40代の男女をはじめとして、「インターネット(区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック)」の比率は年々上昇している。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.3%を占めて最も高くなっているほか、「災害や気象に関する情報」と「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」も5割を超えている。このように、上位3項目は、やや比率の増減はあるものの、平成27年度調査結果とほぼ同様になっており、区民の最大の関心事が健康、福祉、防災にあるという状況は変わっていない。

また、こうした情報が必要なときに得られているか聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が、平成27年度調査結果の64.7%から今回67.5%へと増加しており、この傾向は平成25年度以降続いている。このように、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいることがわかる。

しかしながら、年々減少してはいるものの【得られない】(「得られていないことが多い」+「まったく得られない」)と答えた方が、1割台半ばを占めており、その理由である「情報が探しにくい」「情報の探し方がわからない」が合わせて6割を超えるという状況は平成27年度調査と大きく変わっていない。

今後も、【得られている】という層を増やし、【得られていない】という層を減らしていくためには、多角的な情報発信により、効果的に行政情報を届けることが求められる。まずは、リニューアルから5年が経過した公式ホームページについて、閲覧者の利用方法の変化に対応出来るよう見直しを図っていく。

なお、数は少ないものの、「区の情報に関心が無い」と答えた方も一定程度存在(3.1%)するため、このような方にどのように関心を持ってもらうかも今後の課題となる。

「お問合せコールあだち」の利用状況については、【知っている】(「利用したことがある」+「知っているが利用したことがない」)が今回33.3%となっており、平成26年度調査以降、微増傾向を示していることから、認知が進んでいることを伺わせる。

5. 健康

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が7.4%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(23.2%)を合わせた【知っている】は30.6%を占めている。一方、「知らない」は67.2%となっている。女性では、各年代にわたって【知っている】が比較的高くなっているが、男性では女性に比べて【知っている】が低くなっている。今後は、男性をはじめとして、この区のキャッチフレーズの周知を図っていくことが重要である。

また、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、今回も、「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」「人工透析」等で高くなっているものの、「神経障がい(手足のしびれ)」や「網膜症」のような《重大な合併症の兆候》を示すものについては、依然として【知っている】が3割以下に留まっている。

今後も、糖尿病という病気の危険性について、継続して区民の理解を深めていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、「食べている」は64.7%を占めている。一方、「食べていない」は26.1%となっている。性別で見ると、「食べている」は20代の女性に比べて、同年代の男性で低くなっているのが特徴的である。

また、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】(「できている」+「まあできている」)は38.0%と平成27年度調査結果(39.6%)とほとんど変わっていない。とくに、【できている】は20代から60代の男性、20代の女性で低くなっており、引き続きいて、この年代を中心に健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、「あてはまる」は、〈現在の健康状態はよい〉が71.6%、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が63.7%と、いずれも高くなっており、ここ数年ほぼ同様の結果となっている。区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。

しかしながら、日頃の生活の中では、30代から60代の男性で喫煙習慣のある人が3割台半ばを超えている。

最後に、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、ここ数年、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

6. スポーツ

日常的な運動・スポーツの実施状況を見ると、「30分以上の運動を週に2回以上」が19.1%を占め、「年に数回（時間は問わない）」まで含めると【運動している】全体は53.1%となっている。その中でも「週1回程度（時間は問わない）」以上を実践してしている人の割合は40%である。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.3%である。年代別・性別で見ると、「30分以上の運動を週に2回以上」が、70歳以上の男性で34.1%、70歳以上の女性で25.9%と、いずれも他の年代より高くなっているのが特徴的である。

次に、継続的に実施している運動・スポーツを見ると、「ウォーキング」が43.3%で最も高く、続いて「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（20.4%）となっている。

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会以後、パラリンピックが注目されている中で、「障がい者スポーツへの意識・行動」を聞くと、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットの観戦を含む）」が21.2%で最も高くなっている。一方、「特にない」が45.3%を占めている。

また、「スポーツボランティア活動への意識・行動」を見ると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」等、いずれも1割以下に留まっている。一方、「特にない」が56.5%を占めている。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心あること」としては、「交通網・交通インフラの整備」が25.3%で最も高く、以下「会場での応援活動」（17.8%）、「選手の育成や支援」（14.9%）の順で続いている。一方、「特にない」は29.4%となっている。

さらに、足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度（高齢者免除制度）については、35.5%が何らかの制度改正を望んでいるものの「現行のまま継続すべき」が46.7%で最も高くなっている。性・年代別で見ると、女性では、70歳以上を除く各年代で「現行のまま継続すべき」が5割を超えている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた区の取り組みを促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策の展開が必要である。

7. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」）は今回47.6%と、平成22年度以降は増加傾向にあり、徐々にではあるが着実に区民の認知は進んでいる。しかしながら、地域や年齢によって、【知っている】の数値が異なるほか、「知っている、活動を実践している」区民は、いずれの年代、地区でも1割に満たない状況にある。今後は、この取り組みへの理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが重要である。

また、足立区内の刑法犯認知件数が減少していることを「知っている」人も43.8%と、平成26年度調査結果以降、増加している。

さらに、居住地域の治安状況については、平成28年度調査結果では、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が54.1%と、平成27年度調査結果（51.5%）を上回り、平成23年度調査以降、増加傾向にある。この結果からは、区の治安状況の改善が着実に進んでいることがわかる。

しかしこれも、治安状況に対する評価にはかなり地域差があるほか、20代の女性では、【悪い】と【良い】がほぼ同率となっている。したがって今後も、地域や性別、年齢にかかわらずすべての区民が、安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動全般に取り組んでいくことが必要である。

【良い】と回答した人に、その理由をきいたところ、平成27年度調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が最も多くなっている。また、治安対策として区に力を入れてほしいこととしても、「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」が51.5%と、ここ数年と同様に高い比率となっており、依然として防犯カメラに対する区民の期待は大きいといえる。また「安心・安全パトロールカーによる防犯パトロール」「安全に配慮した道路・公園の整備」も4割前後と高くなっている。

さらに、治安を【悪い】と感じる人では、今回、「自転車盗難・空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は今回52.5%と、前回調査結果の56.7%より低く、平成26年度調査以降減少傾向を示している。

このように、区の治安状況が改善していると評価する区民は年々増えており、区の実績は一定の成果を得ていると考えられる。今後、足立区をさらに安心安全なまちにしていけるため、治安の向上のための様々な事業に、区民と行政、関係機関が緊密に連携して、取り組んでいくことが求められる。

8. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が今回も84.3%と最も高くなっており、平成23年度以降、毎年僅かな数値の増減はあるものの、常に8割を超えており、《ゴミの分別》が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」と「マイバックを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も、ここ数年5割を超えている。

次に、この1年間に参加した活動をみると、「特に参加していない・特にない」は今回40.3%と、平成26年度調査結果（32.7%）以降増加傾向にあり、反対に《何らかの活動に参加している》が減少していることがわかる。

その内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が今回も19.1%と、最も高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」「町会や自治会の運営に関する活動」も1割を超えている。

一方、今後の活動への参加意向をみても、ほぼ同様の傾向が示されている。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が今回23.2%と、平成27年度調査結果の20.2%から微増しているが、平成25年度調査（30.0%）の水準には回復していない。また、「わからない」という回答も、平成27年度調査結果と同様に6割近くを占めており、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容や、その進捗状況を、区民が客観的に評価できる仕組みをどのように構築するか、という課題は依然として解決していないことがわかる。

9. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っている、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が、今回30.5%と平成27年度調査結果（30.2%）とほぼ同様の結果となっている。

地区ブロック別でみると、第4、第5、第8、第9、第10、第11、第12ブロックでは【知っている】がいずれも3割を超えて、性・年代別でみると60代、70歳以上の男性、40代、50代、60代、70歳以上の女性で高くなっており、地域や年齢によってかなりの差がある。その認知経路をみると、「あだち広報」は今回57.9%と、平成25年度調査結果（55.2%）より微増している。

今後も、「あだち広報」を中心として、町会・自治会、民生・児童委員などと連携して、区民すべてに、このプロジェクトを認知してもらうことが重要である。

また、「地域包括支援センター」の認知状況についてみると、【知っている】（「知っている、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）は、今回52.7%となっており、ここ数年微増傾向を示している。

さらに、高齢者の孤立防止や見守り活動への参加意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回16.7%と、ここ数年横ばい状況にある。地域ブロック別でも、【協力したい】は多くのブロックで1割台半ばから2割強に留まっている。性・年代別でも、【協力したい】が2割を超えているのは70歳以上の男性、60代、70歳以上の女性に限られている。

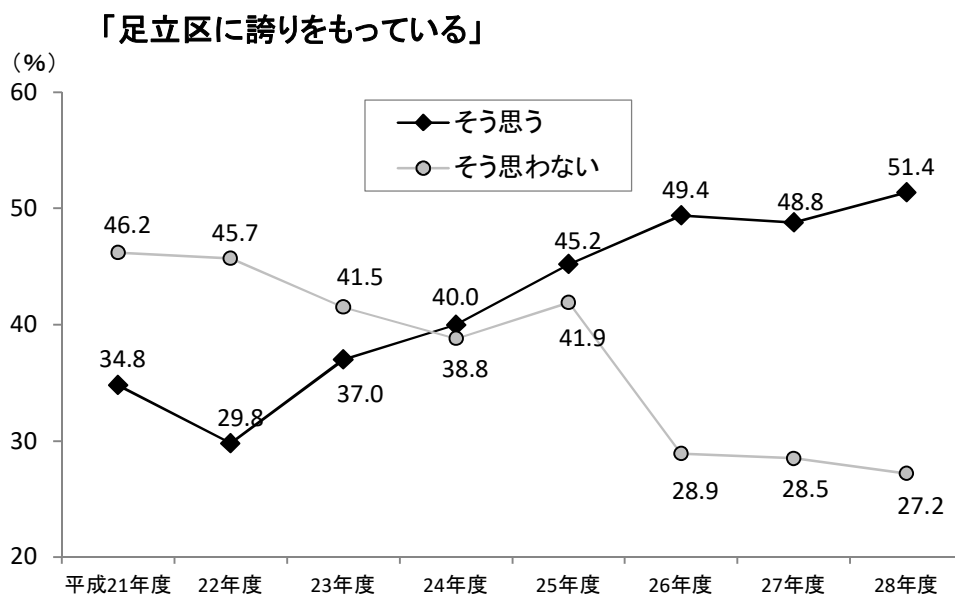
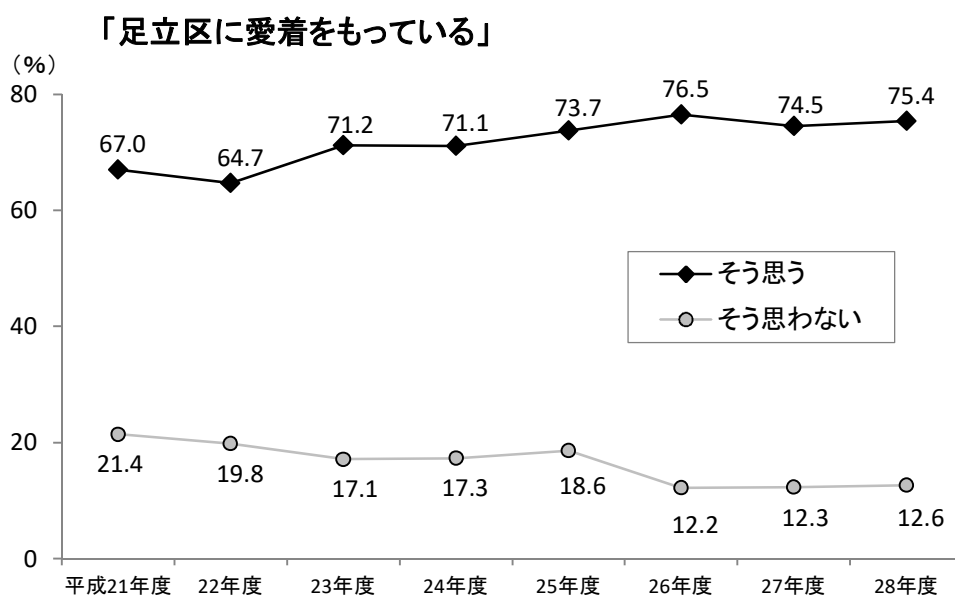
次に、協力意向のある人では、「体調の変化、悩み相談などをうかがいながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が今回49.3%と、平成27年度調査結果（56.0%）より低下したものの、依然として第1位を占めているほか、『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動も3割台半ばを占めている。

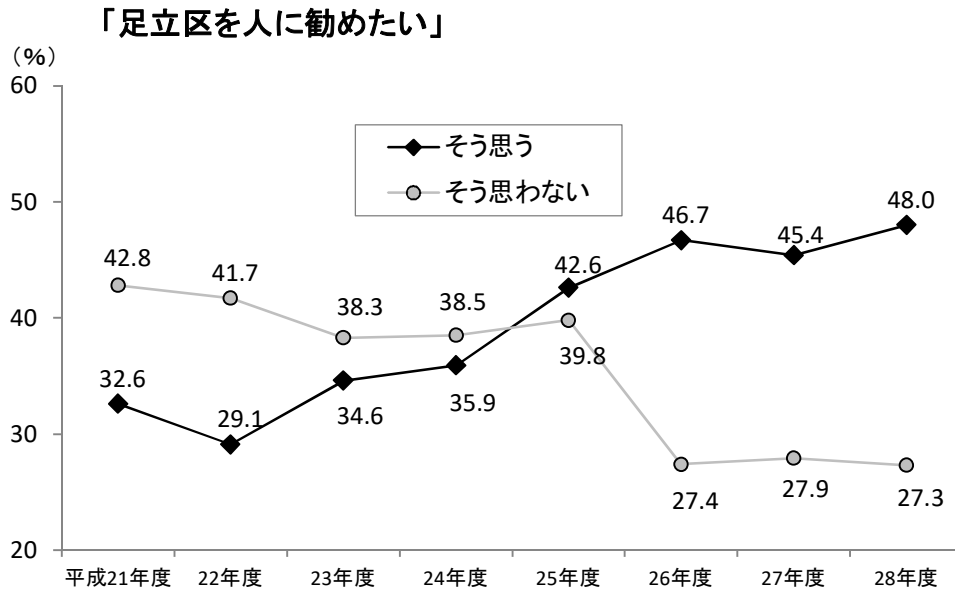
また、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの権利を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「名前は知っているが、内容はわからない」）は今回59.8%と、平成27年度結果（57.4%）より微増し、ここ数年の増加傾向は続いている。

以上のように、地域包括支援センターの認知度や成年後見制度の認知度は、いずれも増加しているものの、孤立ゼロプロジェクトの認知状況や高齢者の孤立防止・見守り活動への参加意向の状況はここ数年ほとんど変わっていない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、事業の周知に粘り強く取り組むとともに、活動への協力を促進していくことが重要である。

10. 区の取り組み

区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けて聞くと、【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえば**そう思う****」）は、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉のいずれも、今回それぞれ75.4%、51.4%、48.0%と、平成27年度の調査結果を上回り、とくに〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉は、過去最高の数値となっている。このことは、区民の区に対する愛着の深まりを端的に示しているといえるだろう。





また、前述したように、足立区の重要な政策課題である治安の問題についても、【良い】との評価が今回54.1%と、平成23年度調査結果（39.9%）から14.2ポイント増加しており、ここ数年で大きく改善されている。

さらに、地域の暮らしやすさへの評価や定住意向は横ばい気味であるものの、区全体に対する満足度は、今回【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は今回57.7%と、平成27年調査結果（53.3%）より増加している。

今回調査においても、前回調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は230頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「行政改革」「交通対策」であるとの結果は変わっていない。しかし、今回すべての分野で【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成27年度の調査結果を上回っており、「治安対策」をはじめとした各分野への満足度の高まりが、区全体への評価の向上につながっているといえる。

また、区政全体に対する満足度が高くなるほど、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者間の相関関係は明らかである。

今後も、「高齢者支援」「障がい者支援」「防災対策」「治安対策」「防災対策」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、一層積極的に取り組むことによって、区民の区政全体への満足度を向上させ、それを区民の定住意向の高まりへとつなげ、足立区を、すべての区民が愛着と誇りの持てる「まち」に発展させていくことが求められよう。

区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	71.1	73.7	76.5	74.5	75.4

(%)

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	63.5	62.4	77.0	82.0	66.7
30代	68.0	69.8	77.2	67.3	67.7
40代	78.2	75.3	76.6	76.5	74.8
50代	65.0	78.6	80.6	73.0	82.1
60代	77.7	73.6	76.6	77.7	82.6
70以上	81.8	77.3	85.9	76.0	82.4

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	56.1	70.6	67.1	67.5	66.3
30代	59.9	64.9	77.6	69.0	66.7
40代	70.6	73.3	71.4	75.1	73.5
50代	63.2	73.6	68.7	74.7	75.7
60代	75.1	77.0	76.9	77.1	73.9
70以上	82.2	77.7	76.5	76.5	80.0

2 足立区に誇りをもっている

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	40.0	45.2	49.4	48.8	51.4

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	28.1	24.7	44.3	54.1	44.9
30代	38.1	45.0	47.5	37.6	47.5
40代	44.2	47.6	50.6	48.8	51.9
50代	32.1	44.8	50.4	47.6	52.7
60代	45.3	52.3	51.5	52.2	59.7
70以上	61.7	59.1	65.9	63.0	68.2

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	24.5	30.6	35.4	37.7	33.7
30代	27.1	28.2	38.8	40.1	41.5
40代	29.4	33.0	42.3	42.8	42.7
50代	27.6	41.0	38.1	39.9	45.1
60代	45.2	50.3	50.0	51.4	50.3
70以上	57.4	58.3	57.3	57.7	60.0

3 足立区を人に勧めたい

全体	24年	25年	26年	27年	28年
	35.9	42.6	46.7	45.4	48.0

男性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	24.0	23.5	62.3	44.3	43.6
30代	37.4	47.3	49.5	36.6	48.5
40代	42.9	47.1	49.4	51.2	55.6
50代	31.4	42.8	48.2	49.2	50.9
60代	40.2	45.4	46.1	48.9	54.2
70以上	46.1	51.5	55.1	54.0	59.1

女性	24年	25年	26年	27年	28年
20代	23.5	37.6	39.2	32.5	41.6
30代	31.1	38.5	42.5	41.5	40.0
40代	32.0	44.3	43.9	41.3	42.7
50代	29.6	42.4	40.3	39.9	47.9
60代	35.9	34.0	42.9	45.7	43.0
70以上	44.2	44.1	46.3	50.0	49.0